

■「効果の見える治水事業」

高知県 高知地区地震・高潮対策河川事業(国分川)

よしむら ひろし
高知県高知土木事務所 所長 吉村 浩司

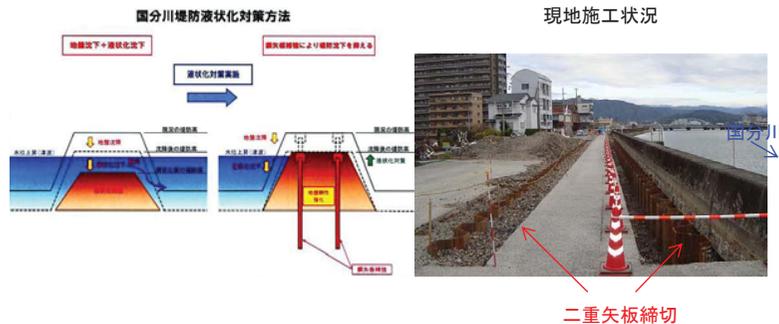


高知市内を流れる河川堤防の耐震対策として、破堤や液状化による堤防の沈下を防ぐため、平成20年度より国分川で、南海地震を想定した耐震化工事を行っています。

対策は、高知市中心部の保全を優先として、過去の南海地震により破堤した脆弱な区間である国分川右岸の下流域から順次行っております。

対策の工法については、構造系の対策工法(固結工法、鋼材を用いた工法)や地盤系の対策工法(締め切り工法、ドレーン工法)等から検討した結果、矢板の剛性で液状化層の側方変位を抑制し、沈下の低減を図る二重締め切り工法が、施工性や経済性で優れることから選定しました。

現在、浦戸湾内に流入している他の河川についても、耐震調査をおこなっており、高知市中心部の保全を進めていく予定です。



南海地震に備えた堤防の強化に期待

おかざき せいや
高知市長 岡崎 誠也



高知市は、四国南部のほぼ中央に位置し、市域面積は309.22 km²、人口約34万3千人の市です。市の北方には急峻な四国山地があり、市域北部の北山に源を発する鏡川の下流域を中心に都市が形成されています。南は浦戸湾を経て土佐湾に面し、東西に広がる海岸線から雄大な太平洋を一望できる地理的条件にあります。

また、市街地に面して広がる浦戸湾は、風光明媚な景観を有するとともに、200種近い魚類が確認できる自然の多様性が豊かな汽水域でもあります。これには、鏡川など多くの河川がもたらす、懐の深い中山間地域からの豊かな栄養分が大きく関係しています。

その一方で、年間を通じて降水量が多く、特に夏から秋にかけては台風の進路にあたることから、年によっては3,000 mmを越す降水量があります。中央の平野部では、河川によって形成された沖積平野の河口付近に、約7 kmにわたって海拔ゼロメートル地帯が広がっており、過去に幾多の水害を経験してきたことから、水害に強いまちづくりを行ってまいりました。

近年では、近い将来発生する南海地震への対策を進めておりましたが、3月11日の東日本大震災の発生により、これまでの対策の早急な見直しをしなければならない状況となっております。そうした状況の中、県が現在進めております国分川右岸の河川堤防の耐震対策や、浦戸湾に流入している他の河川の耐震調査などは、高知市中心部の保全につながる大変重要な事業であると認識しており、心から感謝申し上げる次第です。

地震による液状化や地盤の沈降、津波に対する不安がある中での堤防の強化は、地域住民にとりましても、大変心強いものになるものと期待しております。

高知市といたしましても、市民の皆様が安心して暮らせるまちづくりに向け、スピード感を持ってハード・ソフト両面での対策を行ってまいりたいと考えています。

